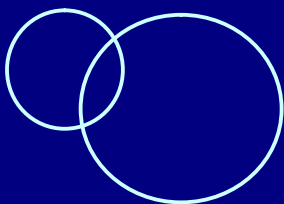
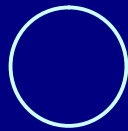
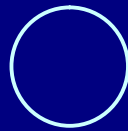
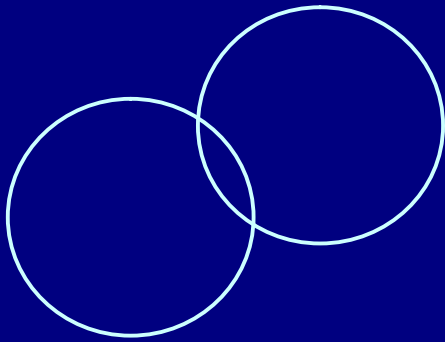


第1章

薩摩川内市水道ビジョンの策定にあたって



第1章 薩摩川内市水道ビジョンの策定にあたって

第1節 策定の主旨

薩摩川内市は、平成16年10月に旧1市4町4村（川内市，樋脇町，入来町，東郷町，祁答院町，里村，上甌村，下甌村，鹿島村）が合併し、誕生した新市であります。

本市水道事業は、4 上水道事業，31 簡易水道事業，12 飲料水供給施設を有しており、これまで給水需要の増加に対応した施設拡張を行ってきました。

しかし、これまでに整備されてきた施設の中には老朽化してきているものもあり、事業の比重が施設の新築・整備から改築・更新へと移行する中で近年の人口や水需要の減少による料金収入の低迷，三位一体改革（国庫補助金の廃止・縮減，税源の移譲，地方交付税の見直し）等の動きから効果的な施設の見直しが課題となっています。

また、需要者の水道水の安全性や水のおいしさ等，多様化・高度化する需要者ニーズや地球規模での環境問題など，水道事業を取り巻く状況は大きく変化してきており，需要者のニーズに応えられる質の高い水道事業の実践が求められています。

一方，厚生労働省は，平成16年6月に「水道ビジョン」を策定し，今後の水道に関する重点的な政策課題と具体的な施策及び方策，工程等を示しており，平成17年10月には，各水道事業者に対して，自らの事業を取り巻く環境を総合的に分析した上で，経営戦略を策定し，それを計画的に実行していくための「地域水道ビジョン」の策定を推奨しています。

本市水道事業は，こうした社会・経済環境の変化に柔軟に対応するとともに，地方分権の広域化という時代の風潮の中で，国や県，本市の新たな計画との整合性を図りつつ，本市がもつ都市機能を基盤として，効率的な事業経営のもとで将来に亘って安全で安心な水の供給確保と災害に強い水道を構築するために「薩摩川内市水道ビジョン」を策定し，今後の進むべき方向を明らかにするものです。



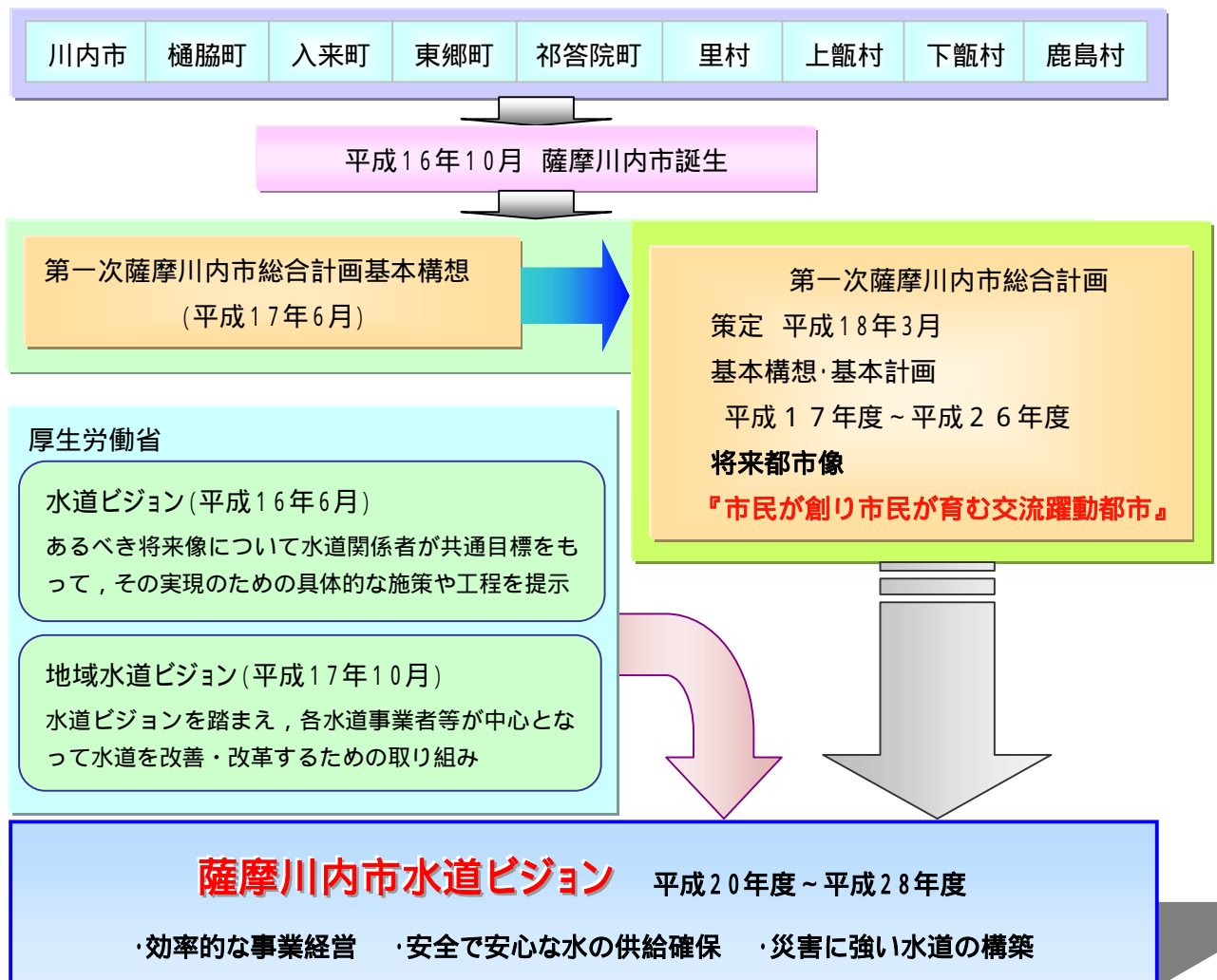
川内地域丸山浄水場（急速ろ過方式）

第2節 位置付け

薩摩川内市水道ビジョンは、平成17年6月に策定された「第一次薩摩川内市総合計画基本構想」及び平成18年3月に策定された「第一次薩摩川内市総合計画」の基本理念である「“地域力”が奏でる”都市力”の創出」を念頭に、薩摩川内市水道事業として中・長期的な施策の方向性を示しております。

「薩摩川内市水道ビジョン」は、これらの既計画及び国が示した水道ビジョンの5つの主要政策課題（「安心」、「安定」、「持続」、「環境」、「国際」）を踏まえ、事業の運営に関する今世紀半ば頃までの長期的な方向性を示します。また、この中で計画期間として、平成20年度から28年度までの施設整備効果のある具体策を策定し、地域・時代のコンテキスト（1）に配慮した上で、住民に理解が得られる水道の構築に取り組んでいくものです。

実施に当たっては、事業の効率化の検討や財政状況を勘案して実行していきます。



1 コンテキスト：事業体，システム，地域条件のプロフィールなど背景となる情報